

事業所職員 放課後等デイサービス自己評価結果

回答者8名(非常勤職員は未回答項目あり)

公開日 令和4年8月4日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5	3	・広いホールの他に3つの部屋がある。その一つはやや狭いため、発達特性を考慮して部屋割りをしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	1	6	・職員はもっと増やしてほしい。9時から15時まで児童発達支援があり、午後は放デイが18時まで続く、日々いっぱいっぱいの状態である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	5	3	・玄関のスロープ等最低限の対応は行っているが、施設の老朽化は課題である。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5	2	・2週間毎の定期的な職員会と毎日のミーティングを実施している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	0	・保護者向けアンケート調査は毎年実施している。 ・相談支援事業所の相談員に届く保護者からの声も共有し改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	0	・自己評価は毎年実施しホームページにも公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	5	・第三者評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7	0	・障害や支援関連の研修へ自主参加している。業務に必要な内容の職場内研修を実施している。 ・職員会の中でも研修を位置付けて資質向上に取り組んでいる。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	0	・面談にてアセスメントを丁寧に行い、計画に反映できるようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	2	・職員の異動などもあり、アセスメントツールの共有に弱さが見られた。改善に取り組んでいく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	2	・月間プログラムを保育士・児童指導員で話し合い作成している。 ・担当制により児発管と担当者で立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5	1	・水遊びや七夕飾りなど季節に合った活動や取組を取り入れている。水遊びなど特徴的な活動を毎月の計画予定通信にて知らせている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	0	・支援計画の具体化のために職員会や毎朝のミーティングで重点を確認している。 ・学校がある平日と長期休業日のプログラムや運営システムは分けて支援の充実を図っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	0	・個別の課題と集団療育における目標の両方を設定するようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	1	・毎朝ミーティングを行い、支援プログラムや引継ぎ事項などを共有して取り組んでいる。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	2	・18時まで支援を提供している事業所であるが勤務時間も18時までであるため原則として翌朝行っている。 ・ヒヤリハットや重要事案と判断した際には時間外勤務として緊急打ち合わせを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	1	・保護者との連携日誌、業務日誌を確実に記録に残している。PDCAサイクルでの支援が情報の共有のレベルを高めていけるように、記録以外の情報が機能するように風通しの良い職場を目指している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	5	1	・6か月に1度行っている。同施設内に併設されているゆりかご成育相談センターとの連携も大切にしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	4	2	・日常動作の訓練や余暇活動の提供などを組み合わせ支援している。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	1	・主に児童発達管理責任者が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	7	0	・毎月翌月の予定確認を紙面で行っている。また、変更を職員間で共有していくシステムを大切に運営している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	7	0	・医療的ケアが必要な児童はいない。ただし、てんかん発作等の持病がある児童はおり、保護者と主治医との連携をとって緊急時の対応を整えている。マニュアルも作成し研修も行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	6	1	・同じ施設で開設している児童発達支援との連携と情報共有を重視している。児発利用時には園への訪問、連携により情報共有を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6	0	・求められた場合、保護者の許可をとり対応している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	2	・県の研修会以外に「子どもの発達支援研修会」や「障害支援研究会」などのスキルアップ研修会などに積極的に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	5	・利用者の実態や移動の問題があり交流等は実施していない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	0	6	・必要があれば参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	0	・帰りは保護者に迎えに来ていただいているため、その日の職員による気づきや考えを伝え共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	5	・面談の際に環境を整えていくことを含め家族を応援していきたいと考えている。利用に声をかけ日常的な支援に心掛けている。ペア・トレとしては行っていない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	0	・更新時に契約や支援について説明し、合意を得た上で署名をいただいている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7	0	・迎えの際に相談に応じたり、ちょっとした気づきについて保護者に声をかけ保護者を応援している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	6	・現在保護者会は行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	0	・「全ては子どもたちの笑顔のために」をモットーに掲げ、日をまたがない対応に心掛けている。施設長がリーダーシップをとり対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	1	5	・定期的会報は発行できていない。「子育てメッセージ」を発行していくことを検討している。
	35	個人情報に十分注意しているか	7	0	・職員会議でも議題として取り上げ、適切な対応に心掛けている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	0	・丁寧な説明と確認を心掛けている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	6	・地域の方に農園での収穫体験をさせていただいている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6	2	・マニュアルは策定しているが、保護者への周知が図れていないという反省を踏まえ、通信により周知を図っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	2	・避難訓練、消火訓練を年2回行っている。シェイクアウト訓練も取り入れていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5	1	・職員会の中で児童福祉司の経験のある施設長が研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	4	2	・身体的拘束を行っていない。 ・部屋を突然飛び出したり物を投げたりする衝動的行動を取りやすい子に対応するために、入口のガラス戸を施錠することはある。安全確保のための集団に対する環境整備である。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	3	・長期休業中は弁当持参でお願いをしており、保護者の管理下の物を食べている。おやつを提供もしているが、アレルギーがある児童については保護者に成分確認をしていただいている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	0	・ヒヤリハット事案については報告書を作成し、パート職員も含め対応策についても共有を図っている。その成果として似たヒヤリハットが繰り返さないようにできている。

